



報道関係者各位

2016年2月23日
株式会社ディー・エム・ピー
東北大学 災害科学国際研究所

SmartEyeglass 等のウェアラブルデバイスや
震災アーカイブデータを活用した被災地観光・防災教育ツアー
『AR HOPE TOUR in Sendai』開催のお知らせ

株式会社ディー・エム・ピー（宮城県仙台市 代表：小林 篤信 以下、dmp）と東北大学 災害科学国際研究所（以下、IRIDeS）は2015年3月に実施した被災地観光ツアー「NATORI AR HOPE TOUR^{注1}」をベースに次世代型観光・防災・減災ソリューションの事業開発を目指し、実証実験を兼ねたツアーを2016年3月12日仙台市にて下記の通り実施いたします。

つきましては、幅広く周知していただくとともに、当日はご取材の上、紙面・番組等で取り上げていただきますようお願い申し上げます。なお、招待者・報道関係者向けのデモツアーのご取材の際は下記問い合わせ先までご一報ください。

○「AR HOPE TOUR in Sendai」概要

主催：株式会社ディー・エム・ピー、東北大学 災害科学国際研究所

共催：仙台市 ※仙台防災未来フォーラム2016 関連イベント

日時：2016年3月12日（土） 13:30～15:30（予定）

場所：仙台市地下鉄東西線荒井駅内「せんだい3.11メモリアル交流館」2Fスタジオ他

※09:30～11:30の時間で招待者・報道関係者向けのデモツアーを実施いたします

募集人数：25名（先着順）

行程：地下鉄東西線荒井駅～荒浜地区～七郷地区（バス移動となります）

ツアー内容（予定）：※荒天時プログラムの変更がございます。

事前レクチャー/現地ツアー/ラップアップ

- ・震災前後の風景のAR表示
- ・津波の高さの擬似体験
- ・発災から現在に至る映像コンテンツ視聴

応募方法等詳細は下記Webサイトよりご確認ください。

URL：<http://www.dmp.co.jp/ar-hope-tour/>

【概要】

dmp はシナリオの監修および震災アーカイブデータの提供を IRIDeS より受け、ソニー株式会社（以下、ソニー）の協力のもと、ウェアラブルデバイスやタブレット端末など、様々なデバイスを活用し、臨場感のある震災記憶の疑似体験や、防災シミュレーションコンテンツの開発をすすめています。

震災から5年を迎え、復興計画もひと区切りとなります。被災地を実際に訪れ、地域の過去・現在・未来を体験いただき震災記憶の伝承と、個々人の防災意識を高める方策として今回のツアーが一助になることを期待しています。

今回の実証実験では、ソニーの機器提供により、AR（拡張現実）^{注2}グラスとして同社製メガネ型端末 SmartEyeglass『SED-E1』を、タブレット端末として『Xperia™ Z4 Tablet』を用います。

ソニー株式会社 SIG 事業室 武川 洋 統括部長のコメント

「SmartEyeglass は、Developer Edition としてアプリ開発者向け製品と SDK を提供し、AR を実現するメガネ型端末の活用シーンを探索しています。この度、dmp 様から被災地観光ツアーという我々の思いもよらない用途で SmartEyeglass の新たな活用シーンをご提案いただき嬉しく思います。我々の製品が、少しでも防災、減災のお役に立つことに繋がれば光栄です。」

【実施背景】

dmp では 2015 年 3 月に国連防災世界会議 in 仙台のパブリックフォーラム内において「NATORI AR HOPE TOUR」と題し、ソニー製 SmartEyeglass による AR を活用した被災地観光の実証実験を国内外の防災減災関係者向けに実施いたしました。実施後の反響にニーズを感じるも課題も散見されました。特に地域に合わせた防災教育に効果的なシナリオとコンテンツの充実が必要と考え、IRIDeS に協力を要請。みやぎ産業振興機構の助成を受け、産学連携にて事業化を目指しています。

■ 本件に関するお問い合わせ

東北大学災害科学国際研究所 災害アーカイブ研究分野（担当：柴山）

宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1

TEL：022-752-2099（平日のみ）

Mail：shibayama@irides.tohoku.ac.jp

株式会社ディー・エム・ピー（担当：佐藤慧）

宮城県仙台市青葉区一番町 2-8-18 仙台中央ビル 8F

TEL：022-214-2772（平日のみ）

Mail：ar-hope-tour@dmp.co.jp

注1 「NATORI AR HOPE TOUR」について

宮城県農業高等学校の AR グラスを用いた観光アイデアをもとに、ソニー株式会社の協力のもと dmp が開発、宮城県名取市閑上地区にて実証を実施。

注2 AR (拡張現実) について

現実環境にコンピュータを用いて情報を付加提示する技術の総称。

被災地の風景（現実の環境）に、いまは体感することのできない震災前や震災直後の風景といった過去、未来の情報（追加情報）をその場に表示させて、ツアーの内容理解を深めます。

AR

H O P E

T O U R

in Sendai
in Tagajo

2016.3.12 sat / 26 sat

ARグラス等のウェアラブルデバイス、震災アーカイブデータの利活用、
ICT技術を用いた被災地観光・防災教育ツアー



コンテンツイメージ※実際の表示・数値とは異なります。

3.12(土) AR HOPE TOUR in Sendai

定員 25名
(先着順)

- 主催/株式会社ディー・エム・ピー、東北大学災害科学国際研究所
- 共催/仙台市 ※仙台防災未来フォーラム2016 関連イベント
- 日時/2016年3月12日(土)13:30~15:30(予定)
- 場所/仙台市地下鉄東西線荒井駅内
「せんだい3.11メモリアル交流館」2F スタジオ他
※9:30~11:30 招待者・報道関係者向けのデモツアーを実施いたします。
- 行程/地下鉄東西線荒井駅~荒浜地区~七郷地区(バス移動となります)
- ツアー内容(予定) ※荒天時プログラムの変更がございます。
 - ・事前レクチャー・現地ツアー・ラップアップ震災前後の風景のAR表示・津波の高さの疑似体験・避難場所への距離の疑似体験

3.26(土) AR HOPE TOUR in Tagajo

定員 25名
(先着順)

- 主催/株式会社ディー・エム・ピー、東北大学災害科学国際研究所
- 共催/多賀城市 減災市民会議2016内で実施
- 日時/2016年3月26日(土)9:30~13:00(予定)
- 場所/東北学院大学 多賀城キャンパス他
- 行程/東北学院大学多賀城キャンパス→国道45号方面→産業道路方面→末の松山
- ツアー内容(予定) ※荒天時プログラムの変更がございます。
 - ・事前レクチャー・現地ツアー・ラップアップ震災前後の風景のAR表示・津波の高さの疑似体験・ドームシアターを使った多人数全天周映像体験



災害科学国際研究所
IRIDeS
International Research Institute of Disaster Science

応募方法等詳細はWebサイトをご確認ください。

<http://www.dmp.co.jp/ar-hope-tour/>

問い合わせ先 株式会社ディー・エム・ピー ar-hope-tour@dmp.co.jp / 022-214-2772 (佐藤)



協力：ソニー株式会社

AR HOPE TOUR

in Sendai / 3.12 sat in Tagajo / 3.26 sat

AR HOPE TOURの目指すもの

・コンテンツ体験による「防災力向上」や「震災記憶の継承」

震災体験を風化させないために、そして今後起こりうる災害に備えるための体験を提供

・被災地から創出するビジネス

dmpとソニーグループの「技」と東北大学の「知」の融合により、観光や防災教育の新たなモデルを被災地から生み出す。

・地域活性化への寄与

地域での防災力向上および震災記憶の伝承に貢献、観光活用による交流人口の拡大と、それにとまなう経済活動への寄与

本ツアーの概要

東日本大震災の被災地域である仙台市、多賀城市において、ウェアラブルデバイス(※)等、さまざまなデバイスを用い、AR(拡張現実)や映像・音声等複合コンテンツを用い臨場感に長けた震災疑似体験をできるようなソリューションを産学連携で構築しています。本ツアーはソリューションの実証実験を兼ねています。

震災アーカイブデータを活用し、復興過程の被災地と震災当時の様子を対比させるAR表示や、津波の高さの体感、証言記録音声などを組み合わせたコンテンツを複合的に体験いただけます。

※ウェアラブルデバイス:身につけてつかう電子デバイスの総称。メガネ型、腕時計型、リング型などのタイプが現存する。

実施背景

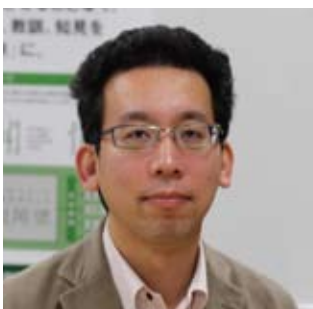
2015年3月の国連防災世界会議において、被災地AR観光のアイデアを出した宮城県農業高等学校の生徒とともに、「NATORI AR HOPE TOUR」と題し、AR(拡張現実)グラスを活用した被災地観光の実証実験を国内外の防災減災関係者向けに実施。

その結果、震災状況を疑似体験するツールとして有用性が確認でき、実施後の反響でニーズを感じつつも、課題も散見された。

その課題に対する解決策をもったパートナーと協力体制を構築。

内容もスケールアップし、新たなフィールドでの実証実験を行うものである。

実証実験に寄せて



柴山 明寛 Shibayama Akihiro

東北大学災害科学国際研究所
情報管理・社会連携部門
災害アーカイブ研究分野 准教授

震災そして津波を経験した人は、二度と同じ被災を繰り返さない。しかしながら、経験していない人は、同じように行動することは難しい。私達は震災の経験を後世へ残し、防災力を向上するために新たな技術でチャレンジをします。



佐藤 慧 Kei Sato

株式会社ディー・エム・ピー
プランナー/ディレクター

昨年のツアーは手探り状態でしたが、多くの反響をいただきました。今年度は高校生たちのアイデアをより高い次元にひきあげる協力体制を構築できました。ただの実証実験で終わらず、被災地から新しい価値を生み出すことに挑戦してまいります。



加藤 圭一 Keiichi Kato

ソニー株式会社
UX・マーケティング本部
マーケティングマネジャー

弊社の「外部企業・開発者との共創マーケティング活動」においてSmartEyeglassというソニーの技術・製品が本件の具現化に貢献できること、また、昨年に続きdmp様、今回は新たに東北大学様とビジネス共創の機会を頂いたことに感謝致します。



山根 正博 Masahiro Yamane

宮城県農業高等学校 実習助手

3年前から生徒たちと被災地語り部ツアーを実践してきました。復興過程で街の姿が変わることで、津波の恐ろしさを伝えることが難しくなりました。そこで、ARグラスを使用した語り部ツアーを考案しましたが、今回、大きな取組として発展していて驚きと喜びを感じています。



応募方法等詳細はWeb サイトをご確認ください。

<http://www.dmp.co.jp/ar-hope-tour/>

問い合わせ先 株式会社ディー・エム・ピー ar-hope-tour@dmp.co.jp / 022-214-2772 (佐藤)



協力：ソニー株式会社